

■ On-Air 3000 ユーザーレポート

株式会社エフエム岩手 様

On-Air 3000

移転と同時にスタジオを On-Air 3000 で更新



■第2スタジオ

株式会社エフエム岩手
放送部
小田島 大・小野寺 一也



21年目の移転

10月2日、開局21年目を迎えエフエム岩手は移転しました。費用を試算し移転が決定してから1年半余り、とにかく目まぐるしい日々ではありました。建設関係、主調整設備、ネット受け設備の移設、おまけにこの機会にと親局送信設備の更新まで、全てが初めて経験する事で、関わった業者の皆様には大変なご苦勞をかけたのだらうと思います。スタジオ設備においても同じことで、まずは、スチューダー・ジャパン、施工を担当した株式会社テクトの皆様へ、深く感謝の意を申し上げます。

卓全体のイメージを好みのデザインに

スタジオ設備の選定にあたっては、決められ

た予算内で、どれだけ多くのスタッフが満足いく設備を導入できるかを念頭におきました。

見積もり段階では、実績のある中継用アナログ卓をスタジオ用にビルトインしたものと競合となっていました。On-Air 3000のフェーダー部分を並べただけのスタイルはなんと魅力的でした。弊社に限ったことではないと思いますが、スタジオを操作運用するスタッフは、必ずしも技術スタッフではなく、アナウンサーや多くの外部スタッフが携わります。マスターフェーダーさえ知らず「音が出ません。」なんて言っている女性外部スタッフさえ居ます。そんなことを考えると、このOn-Airシリーズが頭から離れなかったのです。

スタジオの配置は、従前通りのANブース/副調スタイルの第1スタジオ、ワンマンDJスタイル



■ワンマンDJスタイルの第2スタジオ



■第3スタジオは第2スタジオに隣接



■第1スタジオ・サブ



■第1スタジオ・アナブース

の第2スタジオ、そしてNEWS専用には防音工事まではしてないが第3スタジオと3つ。第1スタジオはどこかの副調室に見る様なスタイルの卓をスチューダー・ジャパン御用達の優秀な木工業者さんに製作して頂き、フェーダーモジュールを3枚埋め込みました。第2スタジオも同様にフェーダーモジュールを2枚埋め込んであります。

卓全体のイメージを好みのデザインにアレンジ出来るのも、On-Airシリーズの魅力のひとつかと思えます。アナウンサーも含め検討し出来上がった卓は、思った以上に「おしゃれ」な感じがありました。

「とにかく触って早く慣れてください」

スタジオの体を成した頃にはエフエム岩手の移

転も佳境に入り、すでにパニック状態。運行のバラランが急務、親局送信設備の仮設運用～本設の段取り、ネット受け設備の移設と、愛しのOn-Air 3000に触ってみるどころではなく、アナウンサー諸氏にこう申し上げてスタジオから離れることとなってしまいました・・・「とにかく触って早く慣れてください」。とても乱暴で危険なことであつたと思いますが、心配をよそに社員のアナウンサー諸氏がとても頑張ってくれて、移転切り替え当初、全ての生放送に立会い指導をしてくれたのでした。

先を越されること2週間、なんとかOn-Air 3000に触れる状況になりました。先行したスタッフはすでに指先一本で簡単にフェーダーの配置換えなどをし、マイクフェーダーのダイナミクスな

どを設定していい音を出している。アナログ卓で培った少しばかりのテクニックが、この卓ではいとも簡単に出来てしまうようです。簡単・シンプルに加え、3ステレオ/4AUX/16ミックスマイナスセンドのミックスバスの多さには驚かされます。入力においても心臓部「Compact S Core」に全てを立ち上げる感覚でいくらかでも回線を引き込めるといった感じ。今までのことを考えると、コストパフォーマンスははかなり高いです。しかも技術者要らずのパッチングワーク、先にも述べた通り、弊社ではアナウンサーの指一本でそれが出来てしまっていたのです。アナログ卓に慣れ親しんだ者にとってカルチャーショックはあるものの、それはほんの僅かの期間でありました。On-Air 3000の導入は間違いなかったものと確信しています。